

平成31年度(令和元年度)

北島学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ① 自分の考えや思いを自分の言葉で表現する力を伸ばす指導の充実
- ② 学校と家庭の連携による学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 谷川 祥 大島 孝代 桑原 紀子	委員 教務 近藤 勝重 第1学年主任 園井忠泰 第2学年主任 平野よしみ 第3学年主任 リンツ 泉
-----------------------------------	--

校長

片倉 繁樹



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 全般的に落ち着いた態度で、基礎的な問題や課題に対しては、意欲的に取り組むことができる。	基礎的・基本的な事項について、繰り返し粘り強く取り組み、学習に対する興味・関心・意欲を身につける。	定期テストでの基礎的・基本的な事項の正答率を80%以上にする。	授業はじめの目標を生徒に提示することを徹底する。	①自主学習の提出率は、放課後や休み時間に仕上げさせるなどの工夫をし、90%以上という目標を達成できている。 ②実施の仕方や回数は各教科に委ねられているが、概ね実施できている。 ③教科や状況により少し差は見られたが、9割弱の教職員が目標を提示している。	各教科において、テスト前に基礎的・基本的な事項を繰り返し復習したり、テスト後に課題となる事項を再度復習する機会を設けたりしたが、定期テストの範囲によって、基本的な事項の正答率が80%を上回ったり下回ったりした。
課題 新しい課題に対しては、興味関心を持ち、意欲的に取り組むことができるが、繰り返し確認していく学習で、根気強さや意欲が不十分になっていく傾向がある。	具体的方策(教員の取組) ①朝学習のセミナー、自主学習などの提出率をチェックし、継続的に取り組めるよう指導する。 ②基礎的・基本的な内容の小テストを実施し、合格点に達しなかった者には補充学習をする。 ③授業はじめの目標(めあて/ねらい)を生徒に提示する。	取組指標 ①自主学習ノートの提出率を90%以上にする。 ②国・数・社・理・英の5教科すべてで小テストを実施することを目標とする。 ③授業はじめの目標提示を実施した教員割合を90%以上にする。		評価 B	次年度における改善事項 授業はじめに目標を提示している教職員の割合が9割弱で、目標の90%には到達していない。教職員への啓発自体が消極的であったように思うので、教職員への働きかけをもっと積極的に行い、学校全体で取り組んでいけるようにしたい。また、各教科において、ワークシートや復習プリントなどの教材を共有し、基礎的・基本的な事項の定着を図るための効率的な方法をさらに考えていきたい。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習方法がわかっていたり、指示された内容がはつきりしていたりすることに対しては、意欲的に取り組むことができる。	自分の考えや思いを目的や条件に応じてわかりやすく相手に伝えることができる。課題解決のために資料や情報を効果的に活用することができる。	「自分の考えや思いをわかりやすく相手に伝えることができない、あまりできない」と答える生徒の割合を10%以下にする。	すべての教科で、ペア学習やグループ活動などの機会を効果的に取り入れ、言語活動の充実を図る。	自分の考えや思いを表現させる場面や授業の中で考えさせる活動を多く取り入れた。また、研究授業や教職経験に応じた研修に積極的に参加することにより、教職員同士が互いの意見を持ち寄り工夫した。教科に差はあるものの、資料や情報を効果的に活用している。	自分の考えや思いをわかりやすく相手に伝えるような活動を各教科で取り入れている。自分の考えや思いを相手に伝えることができるようになった生徒は増えているものの、苦手意識をもっている生徒も少なくない。
課題 答えがわかっても、自分の考えや思いを表現することが苦手な生徒が多い。自主的に表現していけるよう工夫が必要である。	具体的方策(教員の取組) 授業の中で考えさせる場面や自分の考えや思いを表現させる場面を、あらゆる機会を捉えて設け、言語活動の充実を図る。	取組指標 1時間の授業の中で、自分で考えたことや思いを文章に表現したり、発表したりする場面を設ける。		評価 B	次年度における改善事項 自分の考えや思いをわかりやすく相手に伝えられるようになったという生徒の割合は増えているものの、苦手意識をもっている生徒が、より発言しやすい授業づくり、学級づくりをいかにしていくか、また自分の考えや思いを深めていくためにはどうすればよいかなどを研修していくことが課題である。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた課題については、ほとんどの生徒がまじめに取り組む、提出することができる。	目標を持ち、それを達成するための計画を立て、家庭学習に意欲的に取り組むことができる。	家庭学習を毎日1時間以上できた生徒の割合を80%以上にする。	家庭学習の時間および内容を充実させる。	①各教科で課題を出すのがテスト前に集中することがある。 ②学習計画を立てさせ学級担任が見て助言をしたり、三者面談では保護者と家庭学習の問題点などを話し合ったりした。 ③総合や学活の時間を使って将来の自分や今後の進路についての学習を行った。	テスト前と後ではどうしても学習時間に差は出るが、家庭学習を平均的に毎日1時間以上できた生徒の割合は目標値に近づきつつある。また、将来や進路を見据えて学習に取り組むよう、三者面談などの機会を使って保護者を交えて話をすることができた。
課題 家庭学習が十分に定着していない傾向がある。自主学習の内容に大きな差があり、何をしたいのかわからない生徒も少なくない。	具体的方策(教員の取組) ①各教科で課題を出し、家庭学習の充実を図る。 ②生徒自らが作った学習計画のもと、家庭学習に地道に取り組むことを習慣づける。 ③進路を見据えた学習指導を行う。	取組指標 ①国・数・社・理・英の5教科において、テスト前だけでなく、定期的に課題を与える。 ②テストの前には目標とそれを達成するための計画を立て、テストの後には反省をさせる。それをもとに、三者面談時に生徒の学習状況についての話し合いを行う。 ③将来の具体的な目標をもつ生徒の割合を80%以上にする。		評価 B	テスト前でなくとも授業に集中し、落ち着いて家庭学習に取り組める生徒を増やしたい。また、課題を出されなくても、自ら考えて計画的に学習を推し進めることのできる自主性を養いたい。家庭学習をどのように進めていけば、より効果的な学習になるのか、学習の方法や学習の仕方についても示す必要がある。

平成31年度(令和元年度)学力向上ロードマップ

